2023 年 8 月 29 日

報道関係者各位

＜特別展のご案内＞

金屏風の祭典

―黄金の世界へようこそ―

会期：2023 年 12 月 17 日（日） ～ 2024 年 6 月 2 日（日）

①展覧会メインビジュアル

岡田美術館（館長・小林忠）は、2023 年 12 月 17 日（日）から 2024 年 6 月 2 日（日）まで特別展**『金屏風の祭典 ―黄金の世界へようこそ―』**を開催いたします。

本展は、2019 年に好評を博した「金屏風展―狩野派・長谷川派・琳派など―」とは趣向を変え、出品作、展示構成ともに装いを新たに「黄金の世界」へお招きします。

金屏風における金の多種多様な表現に着目し、「金雲」「金銀」「金地」という 3 つのテーマを設け、当館収蔵のバラエティー豊かな金屏風約 30 件を展示します。

最初の「金雲の間（ま）」では、狩野派が得意とした力強い金雲や、大和絵風の雅やかな金雲などさまざまな金色の雲が巡り、続く「金銀の間」では、銀箔や銀砂子が組み合わされた金屏風が落ち着いた雰囲気を作り出します。

一転、「金地の間」では金箔におおわれた総金地の屏風が光沢を放ち、「光琳風」や「近代の屏風」のコーナーへと展開します。そして最後に、金屏風の伝統を現代につなぐ日本画家・福井江太郎氏（1969～）による当館ライブペインティングの作品がお披露目となります。

見どころ 1

金屏風約 30 件、次々と展開する黄金の世界

黄金で埋め尽くされる展示室は圧巻！

見どころ 2

世界的にも珍しい「金雲」に注目！

「金雲」のさまざまな演出効果

見どころ 3

特別展示　ライブペインティングの金地の絵を披露

現代日本画家・福井江太郎氏による琳派の継承

見どころ１

金屏風約 30 件、次々と展開する黄金の世界

黄金で埋め尽くされる展示室は圧巻！

②展示室イメージ

＜展示構成＞

第１室「金雲の間」	力強い、優美、立体的など、実に多様な金色の雲
第２室「金銀の間」	金に銀箔や銀砂子などを組み合わせた、古風で落ち着いた雰囲気の屏風
第３室「金地の間Ⅰ」	空も地面も、画面の大部分が金箔地のきらびやかな屏風
第４室「金地の間Ⅱ」	［光琳と光琳風］コーナーと［近代の金屏風］コーナー

【第１室「金雲の間」より】　力強い、優美、立体的など、実に多様な金色の雲

力強い金雲が地面近くを這うように巡って聖地を荘厳。画風から狩野派の作と考えられる屏風。

③「鞍馬・厳島図屏風」江戸時代初期　17 世紀

【第２室「金銀の間」より】　銀色の川にかかる黄金の橋の圧倒的な存在感

大きな切箔（きりはく）（金箔を切ったもの）で表した雲や銀色の波（現在は変色して黒くなっている）は、室町時代の古風な屏風に倣ったもの。

④「柳橋水車図屏風」江戸時代前期　17 世紀

【第３室「金地の間Ⅰ」より】　金地に白菊だけを描いた幽玄な空間

地面と背景が一体化した金箔地に、花の白・葉の緑と墨色が映える、日本古来の典雅な配色。

⑤尾形光琳「菊図屏風」江戸時代前期　18 世紀初頭

【第４室「金地の間Ⅱ」より】

［光琳と光琳風］コーナー

尾形光琳は、金雲のない、金箔地が広がる屏風を好んで描いた。中でも『伊勢物語』を題材とした燕子花図は、さまざまな画家がアレンジしながら描き継いだもの。右の孤邨の屏風は、もと衝立の一面で、もう一面には銀で八橋図を描いた。

金地は日に輝く雪の原

⑥尾形光琳「雪松群禽図屏風」
江戸時代前期　18 世紀初頭

金地は水面？ 岸辺？ 空？

⑦池田孤邨「燕子花図屏風」
江戸時代後期　19 世紀中頃

［近代の金屏風］コーナー

明治以降の画家たちは、「伝統と創造」を強く意識しつつ日本画の革新を図り、新感覚の金屏風を作った。玉堂の富士図は、室町時代の雪舟風と江戸時代の琳派風を融合したもの。

伝統的な富士図に新風を吹き込む

⑧川合玉堂「冨嶽」大正 7 年（1918）

＜ここに注目！＞　金屏風の紙地と絹地

平安時代や鎌倉時代の屏風は、１扇（せん）（連続する細長いパネルの１枚）ごとに縁取られ、絹地が一般的でした。その後、縁取りなしで各扇をつなぐ紙製の蝶番が発案されたことにより、連続する大画面の屏風が生まれます。室町時代には、屏風の需要の高まりとともに、絹地より廉価な紙地の屏風が主流となりました。現存作品も紙地の金屏風が多くを占める中、一部に、絹地のものが見られます。上の玉堂の富士図もその１つで、高価で落ち着いた輝きを放つ、上質な屏風と言えます。本展ではほかに 2 点の絹地の屏風が登場。紙地の金屏風との違いを楽しんでいただけます。

岡田美術館 OKADA MUSEUM OF ART
〒250-0406 神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷493-1　TEL 0460-87-3931（代表）
www.okada-museum.com

見どころ2 世界的にも珍しい「金雲」に注目！

「金雲」のさまざまな演出効果

金屏風の初期の段階では、金・銀に雲母（うんも）を組み合わせ、複雑に画面を装っていました。室町時代終わり頃から狩野派を中心に、金雲を効果的に配した豪華な屏風を作るようになり、桃山時代に大きく発展させます。

「金雲」は、現実には存在しない大変不思議なもので、何を意味するかもわかっていません。

世界の美術において特異なこの「金雲」を、日本の画家たちはさまざまに使いこなしてきました。画面の荘厳、空間の奥行きの表現、場面転換、不要なものの隠蔽など、金雲はいくつもの役割を果たします。日本独自の「金雲」に注目しながら、「金使い」の様子を探ってみましょう。

金雲が花鳥画に華やぎをもたらす

木々と山々の間に金雲を配して画面に奥行きを作るのは、狩野派が得意とした手法。
8曲1双のまま残る、桃山時代の貴重な屏風。

⑨狩野派「春夏花鳥図屏風」桃山時代　16世紀

あら不思議、金雲と地面が一体化？

よく似た室町時代の屏風は、地面に銀砂子を撒き、雲母も使っていた。
この屏風は、桃山時代の流行に合わせて金箔多用の屏風に大変身したもの。

⑩「競馬図屏風」桃山～江戸時代初期　17世紀

行列は静かに流れる金雲のなかに

寛永3年（1626）、後水尾天皇が二条城に行幸した折の記録的な屏風。
幅の広い帯のような金雲が静かに流れ、行列を際立たせながら、歴史的な盛儀を典雅に装う。

⑪「二条城行幸図屏風」江戸時代前期　17世紀

＜ここに注目！＞　金雲をいかに表すか　―絵師たちの工夫―

金屏風の画面の多くを占める金色は、主に金箔を画面に押して表しています（金箔を「貼る」ことを伝統的に「押す」と言います）。金雲が重なる部分や、地面と接する部分は、作業の効率上、金箔をつなげて押すので、そのままでは境目がわかりません。そこで、金箔を押す前に、雲の縁や全体に胡粉（貝殻を焼いて粉末にした白い絵具）を盛り上げる、という手法を使いました。
また、金箔を大小に切った切箔や、金箔の粉末を膠で練った金泥を組み合わせることによって、さまざまな金雲を表し、多様な金屏風を作ってきました。

狩野派「春夏花鳥図屏風」（部分）

金雲の縁は、胡粉をうすく盛り上げてから金箔を押している。金箔がごく薄く、胡粉が白いせいか、縁が白っぽく浮き上がって見える。

「競馬図屏風」（部分）

金雲の全体に、大小の粒状や雲形状に胡粉を盛り上げてから金箔を押している。金雲を金地から浮き上がらせるだけでなく、豪華に見せる効果がある。

「二条城行幸図屏風」（部分）

金箔を押した金雲の周縁を細かい切箔でぼかし、やわらかさ、優美さを演出する。地面は光沢の鈍い金泥塗りなので、金雲の方が手前に見える。

見どころ 3　特別展示　ライブペインティングの金地の絵を披露

現代日本画家・福井江太郎氏による琳派の継承

当館の風神・雷神の大壁画「風・刻」は、江戸時代初期の俵屋宗達による金屏風を創造的に模写し、2013 年秋の開館時に完成させたものです。作者の福井江太郎氏（1969～）は、以前から、現代の日本画家としては稀な「金地に描く」画家でした。一方で長年行ってきたライブペインティングでは、主に紙の素地と墨を使ってきました。2023 年 5 月 13 日に開催した 10 周年のイベントにあたっては、両者を組み合わせた金地・着色のライブペインティングに初挑戦。描いたのは、光琳の燕子花図を髣髴とさせる花菖蒲の絵です。
金屏風の伝統を現代につなぐ福井氏の「琳派の最新型」と言える作品を、本展でお披露目します。音楽に乗りながら素手と筆を使い、たった 15 分で描き上げた渾身の作。画面にのこる指跡が、全身全霊のパフォーマンスと観客が一体となった、濃密な時空の熱気を伝えています。

⑫福井江太郎「楽」令和 5 年（2023）　撮影：橋本憲一

ライブペインティングの様子
撮影：橋本憲一

【開催要項】

展覧会名	金屏風の祭典 ―黄金の世界へようこそ―
会期	2023 年 12 月 17 日（日）～2024 年 6 月 2 日（日）
休館日	2023 年 12 月 31 日（日）・2024 年 1 月 1 日（月）
主催	岡田美術館
所在地	神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷 493-1
開館時間	9:00～17:00（入館は 16:30 まで）
入館料	一般・大学生 2,800 円（2,550 円）　小中高生 1,800 円（1,550 円） ※（　）内は前売り料金。前売り券(JTB レジャーチケット、チケットぴあ)は主要コンビニエンスストア並びにチケットぴあにて販売。

会期中のイベント 参加費無料（要入館料）／定員あり

講演会 ※事前申込　TEL：0460-87-3931

●狩野派の金屏風
日　時：2024 年 3 月 23 日（土）13:00～14:30
講　師：小林 忠（岡田美術館　館長）

●琳派の金屏風
日　時：2024 年 5 月 11 日（土）13:00～14:30
講　師：小林 忠（岡田美術館　館長）

関連講座 ※申込不要

●金屏風さまざま―金雲と金地に注目して―
日　時：2024 年 2 月 24 日（土）13:00～14:30
講　師：小林 優子（岡田美術館　主任学芸員）

関連スライドトーク ※申込不要

●やきものにおける金と銀
日　時：2024 年 4 月 13 日（土）13:00～14:00
講　師：塩谷 尚子（岡田美術館　学芸員）

ギャラリートーク ※申込不要

◎館長によるギャラリートーク
12 月 21 日、1 月 4 日・25 日、2 月 8 日・22 日、3 月 7 日、4 月 11 日・25 日、5 月 23 日
いずれも木曜日 13:30～

◎学芸員によるギャラリートーク
12 月 22 日～5 月 20 日　毎週月・金曜日　11:00～
月曜：常設展示、金曜：特別展「金屏風の祭典」

【次回展予告】
広重「東海道五十三次」と日本の風景（仮）
2024 年 6 月 9 日（日）～ 2024 年 12 月 8 日（日）　※会期は変更になる場合があります

【本件に関するお問い合わせ先】
岡田美術館　広報担当：髙橋・山本・川村
TEL：0460-87-3931　FAX：0460-87-3934　E-mail：pr@okada-museum.com
※休館中（2023 年 12 月 31 日・2024 年 1 月 1 日）は留守番電話となります。
お問い合わせは上記メールアドレスをご利用ください。

【岡田美術館について】

岡田美術館は 2013 年 10 月、箱根・小涌谷に開館しました。全 5 階、展示面積約 5,000 ㎡という屋内展示面積としては箱根随一を誇る広大な館内に、日本・東洋の陶磁器や絵画などの美術品を常時約 450 点展示しています。日本で受け継がれてきた美術品を大切に守り、美と出会う楽しさを分かち合い、次代に伝え遺したい、との願いから、美術館が構想されました。美術館の正面を飾るのは、現代日本画家・福井江太郎氏によって描かれた縦 12m、横 30m に及ぶ風神・雷神の大壁画「風・刻（かぜ・とき）」（2013 年）です。他にも深見陶治氏、諸井謙司氏、樂雅臣氏など、現代作家の作品が屋内外に展示され、来館者をお迎えします。その他付帯施設もお楽しみください。

大壁画

琳派の祖ともいえる俵屋宗達の「風神雷神図屏風」をもとに、現代日本画家・福井江太郎氏が現代に甦らせました。構想も含め 5 年の歳月を掛けて制作した大壁画「風・刻」が、皆様をお迎えします。

⑬美術館外観

開化亭

昭和初期の日本家屋を改装した風流な飲食施設「開化亭」は、明治半ば、この地にあった外国人向けホテルにちなんで名づけられました。趣ある古いガラス戸の向こうには、2 か所に滝が流れ落ち鯉が回遊する池と、季節によって表情を変える庭園の木立が広がっています。「名物豆アジ天うどん」をはじめ、各種ドリンクなどをご用意しています。

⑭開化亭

足湯カフェ

風神・雷神の大壁画を前にした 100%源泉かけ流しの足湯カフェでは、コーヒー、ビール、おしるこなどをお楽しみいただけます。なかでも、静岡県産の茶葉を使用した和紅茶は、「食のオスカー」とも呼ばれる『Great Taste Awards（英）』で金賞を受賞した逸品です。

⑮足湯カフェ

ミュージアムショップ

「美術館の感動を日常でも楽しめる」をコンセプトに、さまざまなオリジナルグッズをご用意しています。ご自宅でもご覧いただけるように図録や絵はがき、クリアファイルなどのミュージアムグッズを取り揃えています。気に入った作品をぜひお手元でお楽しみください。

※画像はイメージです。

⑯ミュージアムグッズ

岡田美術館 OKADA MUSEUM OF ART
〒250-0406 神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷493-1　TEL 0460-87-3931（代表）
www.okada-museum.com

金屏風の祭典 ―黄金の世界へようこそ―

広報用画像

広報用画像をご使用の際は下記の点にご注意ください。

＊写真データの使用は本展覧会の紹介目的に限り、二次使用や改変（部分使用含む）は行わないでください。

＊ご使用後 2 週間以内に、当館より貸与した写真データ（以下原データという）を記録した媒体は当館に返却のうえ、保有する原データ（作業上発生したすべての原データの複製物及び複製データを含む）は消去してください。

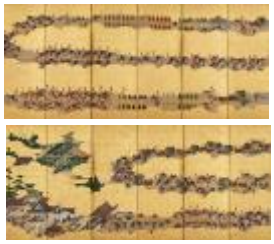
＊web 掲載の際は「画像写真の無断転載を禁じる」旨を表記してください。

＊作品写真には「岡田美術館蔵」、作者名、作品名、制作年ほか当館の指定する項目を表記してください。スペースに限りがあり、すべての記載が難しい場合は別途ご相談ください。

＊ご紹介いただく際は、本展の基本情報（日時・会場・電話番号・写真キャプションなど）の確認のため、校正を岡田美術館広報担当者までメールまたは FAX でお送りください。校正期間は中 3 営業日を基本として返答させていただきますので、期間に余裕をもってご送付ください。大変恐縮ではございますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

＊掲載時のキャプションは、画像をお送りする際にお渡しする表記一覧をご参照ください。

※下記素材以外の写真データが必要な場合は、別途お問い合わせ願います。

①展覧会メインビジュアル	②展示室イメージ	③鞍馬・厳島図屏風（部分）	④柳橋水車図屏風（部分）
⑤菊図屏風（部分）	⑥雪松群禽図屏風（部分）	⑦燕子花図屏風（部分）	⑧冨嶽（部分）
			
⑨春夏花鳥図屏風（部分）	⑩競馬図屏風（部分）	⑪二条城行幸図屏風（部分）	⑫楽
⑬美術館外観	⑭開化亭	⑮足湯カフェ	⑯ミュージアムグッズ

―金屏風の祭典 ―黄金の世界へようこそ―　広報用画像データ貸出申込書

FAX　0460-87-3934　E-mail　pr@okada-museum.com（岡田美術館　行）

プレスリリースをご参照の上、ご希望の写真 No. に✔印を付けてください。

✔	No.	掲載時のキャプション
	1	展覧会メインビジュアル
	2	展示室イメージ
	3	「鞍馬・厳島図屏風」（部分）江戸時代初期　17 世紀　岡田美術館蔵
	4	「柳橋水車図屏風」（部分）江戸時代前期　17 世紀　岡田美術館蔵
	5	尾形光琳「菊図屏風」（部分）江戸時代前期　18 世紀初頭　岡田美術館蔵
	6	尾形光琳「雪松群禽図屏風」（部分）江戸時代前期　18 世紀初頭　岡田美術館蔵
	7	池田孤邨「燕子花図屏風」（部分）江戸時代後期　19 世紀中頃　岡田美術館蔵
	8	川合玉堂「冨嶽」（部分）大正 7 年（1918）　岡田美術館蔵
	9	狩野派「春夏花鳥図屏風」（部分）桃山時代　16 世紀　岡田美術館蔵
	10	「競馬図屏風」（部分）桃山～江戸時代初期　17 世紀　岡田美術館蔵
	11	「二条城行幸図屏風」（部分）江戸時代前期　17 世紀　岡田美術館蔵
	12	福井江太郎「楽」令和 5 年（2023）　岡田美術館蔵　撮影：橋本憲一
	13	美術館外観
	14	開化亭
	15	足湯カフェ
	16	ミュージアムグッズ

申し込みフォーム　＊フォームへの記入、もしくはお名刺の添付をお願いいたします。

貴社名			
媒体名			
ご担当者様名		TEL	
部署名		FAX	
E-mail			
ご住所	〒　　―		
放送・掲載内容			
放送・掲載予定日	年　月　日	画像データ　必要期限	年　月　日
放映エリア／発行部数			
弊社社内ネットワークへの当該記事 PDF の掲載可否	可　／　否	その他、掲載条件	

★プレゼント用招待券をご希望の方は、別途広報担当にご相談ください。

岡田美術館 OKADA MUSEUM OF ART

広報担当：髙橋・山本・川村　mail：pr@okada-museum.com

〒250-0406　神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷 493-1　TEL：0460-87-3931